**西日本日独協会　Japanisch-Deutsche Gesellschaft Westjapan**

**2024年3月例会のご案内**

**卓 話「**オルガニストのドイツ生活40年**」**

**＆ 懇親会**

**講師:　諸岡 亮子（もろおかりょうこ）氏**

短い福岡への里帰りの合間を縫って、卓話をしていただきます。ドイツに渡って40年間に彼女がなしてきたこと、宗教音楽のこと、Hannoverでの暮らしなど、きっと皆さんにとって興味あるお話が聞けることと思います。

福岡市出身。1979年、立命館大学文学部史学科東洋史専攻卒業。　1984年、ドイツに渡り、1985年、ハノーファー国立音楽大学パイプオルガン専攻科および教会音楽科に入学。ウルリヒ・ブレムシュテラーに師事　1989年、同大を卒業。現在、ハノーファー市・　ナザレ教会、パオロ教会専属オルガニストを務めるかたわら、ヨーロッパ各都市でコンサートを開催するなど活躍している。　1995年よりバロック・ブラス・オブ・ロンドンのオルガン奏者となり、世界各国のツアーに参加（日本でも2回ツアー参加）、ニーダーザクセン国立歌劇場やNDRハノーファー放送交響楽団のオルガン、チェンバロ奏者として定期的に演奏活動を続けている。ハノーファー音楽大学の非常勤講師も務める。

最近はヨーロッパの室内楽アンサンブルとの共演（ポーランド室内合唱団、リノスアンサンブル、ファインアーツ弦楽四重奏団など）も多く、活動の幅を広げている。

母親の諸岡須賀子さんは当協会の元会員。

＊卓話＆懇親会　（どちらも事前申込みが必要です。懇親会は着席形式のため、**先着50名**です。）

**日　時：2024年3月9日（土）　17:00～20:00（受付16:40～）**

**場　所 ：　西部ガスパピヨン24　2階　14番会議室+レストラン「and」**

（〒812-0044　福岡県福岡市博多区千代1丁目17-1､福岡市市営地下鉄「千代県庁口」下車直結）

　　　　講演　 ：　17:00～18:00　 参加費　会員無料、非会員のみ500円　 当日徴収

　　　　懇親会：　18:05～20:00　 参加費　4,500円 （但し学生3,000円）　当日徴収

＊お申込み、お問合せ先

2月27日（火）までに、下記の「参加申込票」または同内容を、下記の協会事務局宛に、

メール、郵送、またはファックスにてお送りください。

（なお、3月5日（火）以降キャンセルの場合は、懇親会費の支払いをお願いします。）

【事務局】 〒810-0012　福岡市中央区白金2-9-6　城島印刷株式会社 気付

Fax(&Tel): 092-524-0059　（電話対応は水曜9:30～12：00のみ）

E-mail info@jdg-nishinihon.org

**･･･････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････**

**３月例会「参加申込票」　2月27日(火)までにご提出ください！**

①氏名（とフリガナ）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

②連絡先　Tel ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　E-mail ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

③所属区分　（該当する欄にチェック☑を入れてください）

□会員　□ドイツ語教室受講生　□一般（非会員）（紹介者･所属など:　　　　　　　）　□学生

④参加区分　□卓話のみ　□卓話と懇親会

**RYOKO MOROOKA**

Ryoko Morooka stammt aus Fukuoka (Japan) und absolvierte zunächst ein Studium der chinesischen Geschichte an der Universität in Kyoto, bevor sie nach Deutschland übersiedelte. Hier studierte sie Orgel bei Ulrich Bremsteller und Kirchenmusik an der Hochschule für Musik und Theater in Hannover, ergänzt durch internationale Kurse bei Harald Vogel, Ton Koopman, Daniel Roth, Luigi-Ferdinando Tagliavini und Joris Verdin.

Neben ihrer Tätigkeit als Organistin an der Pauls / Nazarethkirche (Südstadtgemeinde) und als Dozentin an der Musikhochschule Hannover, gab sie Konzerte in Deutschland, Frankreich, Italien, Schottland, Portugal und Japan, wo sie beim Musikfestival Takaoka Poulenc-Orgelkonzert spielte.

Seit 1995 ist sie Mitglied des Baroque Brass of London und unternahm mehrere Auslandtourneen. An der Staatsoper Hannover wirkte sie als musikalische Assistentin bei Purcell-produktion unter Konrad Junghänel.

Als Spezialisten des Harmoniumspiels wirkte sie bereits bei verschidenen Rundfunk-und Schallplattenprodukionen mit, so unter anderem mit dem Ensemble Musique Novelle de Liege, der Konzertvereinigung Berlin-Bodensee, dem Jüdischen Kammerorchester München, dem Arte Ensemble, dem Linos-Ensemble, dem Philharmonischen Staatsorchester Halle, der Radio-Philharmonie Hannover des Norddeutschen Rundfunks, dem Polnischen Kammerchor, dem Chorus Köln, dem Chorwerk Ruhr, sowie dem Rias-Kammerchor Berlin, wo sie bei der CD Produktion „Petite Messe Solennelle“ von Rossini mitgewirkt hat. Kürzlich wurde ein Porträt „kleine Schwester der Orgel ― Ryoko Morooka und Harmonium“ von rbb (Rundfunk Berlin Brandenburug) gesendet.